

おぢば



立教 188 年子どもおぢばがえり

今年のアメリカ・カナダ・ハワイ団の「子どもおぢばがえり」には、19名の少年会員と26名の育成会員が元気いっぱいに参加し、にぎやかなおぢばの夏を楽しみました。さらに、海外少年ひのきしん隊には6名の隊員と3名のカウンセラーが参加し、伏せ込みに汗を流しながら、心を合わせてひのきしんに励みました。

天理教アメリカ伝道庁

No.933

AUGUST

2025



TenrikyoAmericaCanada.org



つらつらせんがく 熟々浅学



—「四方正面」—

先月末、おちばにて、こどもおちばがえりが行われ、少年会アメリカ団の少年会員たちが参加してくれました。たくさんの思い出を作ってくれたと思います。

その際、少年会員の世話をしてくださった団長さんを始め、皆様に厚く御礼申し上げます。

今月は、少年会アメリカ団のおつとめまなび総会が行われます。大勢の子供たちが参加してくれると思っていますが、参加する少年会員たちがこの総会の体験を通して、立派なよふぼくへの成人の道を歩んでくれることを願っています。

また、今月30日と31日に原典に関する教理勉強会を開催します。参加者たちが原典を身近に感じて多くのことを学ぶ機会になると思います。滞りなく開催できるようにサポートしたいと思っています。

さて、日本に「人のふり見て我がふり直せ」という諺があります。その意味は「他人のふるまいを見て感じるものがあつたら、改めるべきところを改めよ。他人の行いを批判する前に、まず自分のことを省みよ」（精選版日本国語大辞典）とあります。また、「他人の行いの善悪を見て、自分の行いを反省し、改めよ」（デジタル大辞泉）ともあります。

「ふり」は「ふるまい、しぐさ」を意味していますが、服装などの外見も含めてもよいようです。

英語では「One man's fault is another's lesson.」とか「Learn from others' mistakes.」となるようですから、日本語の意味とは少しニュアンスが異なるように思われます。

しかしながら、日本語でも英語でも、自分の周囲の人なり、目に入る人の行動を見て、何か違うな、それはおかしいのではないかと感じたり思っ

たりした時に、自分の行動と照らし合わせて自分の行動を省みることが大切であることに変わりなく、それだけでなく、改めるべき点が見つければそれを改めるということが必要との意味になっています。

ただ、この諺には2つの注意点があると私は思っています。

1つ目は、改めるべき方向性です。それは“善い方向性”であろうと思います。つまり、“常識”と言われる方向性へと改めるということだろうと思います。

2つ目は、改めるべき方向性を定める時に“何を基準にしているか”ということです。先程“常識”と書きましたが、その“常識”の基準は何であるかということです。極端な例でしようが、例えば、独裁国家であれば、独裁者の“常識”がその国の“常識”になっているでしょうから、その“常識”から外れていけば“非常識”になります。独裁国家での“常識”の基準であれば、その国にとっての“善い方向性”へとは、独裁者への忠誠という方向性になるでしょう。素晴らしい思想を持ち、国民を幸せにしようとしている独裁者であれば問題ないかもしれませんが、自己中心的な考えを持った独裁者の“常識”であれば、間違つた方向に進む可能性が大きいと言わざるを得ません。

先程、「人のふり」に「服装など外見ものの中も含めてもよいようです」と書きましたが、そのことを含めて考えますと、この諺は外見に焦点を当てているように思えます。つまり、人の内面を注視しているのではなく、服装や行動など外見に焦点を当てての諺という意味です。

人の行動には内面的側面があつて、それが形に現れることが多いのですから、人が何故そのよう

な行動をしたのかを内面から検証することが大切だと思うのです。つまり、人が行動する時の心理的検証が大事であるという意味です。

言いたいことは、この諺には内面的側面の省かれているのではないかということです。人の外面的側面に重きを置いている諺でないかという意味です。

この諺に似た教えとして天理教には「四方面」があります。または「四方面、鏡やしき」とも教えられます。

以下、少々長いですが、天理教事典第三版（天理大学付属おやさと研究所編）の「四方面」の項目から引用します。

『四方面とは、東西南北あるいは前後左右のすべてが正面ということであり、どこから眺めても裏がなく、澄みきっていること。「おさしづ」では「神は四方面である」（明治22年6月17日）、「神は四方面として働く」（明治20年11月）と言われ、親神の鎮まる「このやしき、四方面、鏡やしきである。」（明治20年4月23日）などと諭されている。「四方面」と「鏡やしき」とがいっしょに諭されている場合が多い。これは、澄みきった鏡には、表裏の区別なくすべて映るというつながりからである。

また、「さづけの理」をいただいた人への「おさしづ」に、表も裏も映ること、尽くす心が映ることが四方面と言われ（明治22年3月2日補遺）、表裏なく、つねに誠の心を尽くすのが信仰の道であると諭される。』

（「天理教事典」第三版、420-421頁）

この項目にありますように、鏡に映った姿、形よりも内面である心を重視しているのが「四方面」の教えであると思います。そして、その映ったモノは、「すべて映る」とあるように善悪共に映るのです。その善悪の元である自分の心が四方面の鏡に映っているとの教えです。つまり、自分の心から醸し出されている姿が四方の鏡に映っているということ。もう少し深い悟りをするならば、自分のいんねんが四方面の鏡に映っているとも言えるのではないのでしょうか。つまり、自分の周囲に居る人々は、何らかのいんねんで繋がっていて、その姿が四方面の鏡に映っていると言えると思うのです。

おふでさきに、

せんしよのいんねんよせてしうごふする
これ八まつだいしかとをさまる 1-74

とあります。これは秀司様とまつ彗様に関するお歌ですが、広い意味で、前生のいんねんによって夫婦、家族が構成されると仰せくださっていると思う上から、自分の周囲に居る人々のいんねんは、自分と似たいんねんを持っていることが言えます。そして、それらの人々のいんねんが分かれば、自ずと自分の前生のいんねんも悟れるのです。

ですから、自分の周囲の人々に対して不足などを思った時には、その人々のいんねんは、つまり、自分のいんねんと似通っているはずなので、自分自身に不足しているということになります。自分では、今生に於いてその人々と同じいんねんは持ち合わせていないと思っていても、前生では同様のいんねんを持っていたと悟れるのではないのでしょうか。

別席のお話に、

「この世は一軒限り一人限り、その日その日旬が来たならば、銘々に通り来れる道は善悪ともに皆現われ出ます。「何程通ろうまいと思うても、通りたゞけは自然に通らねばならん、又、通さねばならん」と仰せられます。」とあります。

周囲に不足する出来事や人が居ても、それは自分自身のいんねん納消の機会を親神様が与えてくださっているのです。そのような環境を親神様がお与えくださっているのです。それが分からなければ不足が積み重なり、いつのまにか悪いいんねんとなって現れて来るのではないのでしょうか。

深谷 洋

立教188年7月月次祭祭文

これの神床にお鎮まりくださいます親神天理王命の御前に天理教アメリカ伝道庁長深谷洋慎んで申し上げます。

親神様には、一れつの子供の陽気ぐらしを楽しみに、この世人間をお創めくださり、限りなき御守護とだんだんのお仕込みにより、只管に成人の道をお連れ通りくださいます親心の程は、誠に勿体なく有難い極みでございます。私共は及ばぬながらも常にひながたを頼りに、思召にお応えさせていただけるよう、日夜勇んでつとめさせていただいております。その中にも今日の吉日は、当伝道庁の七月の月次の御祭りを執り行う芽出度い日柄でございますので、只今より、おちばの理を頂戴して、おつとめ奉仕者一同心を一つに合わせて、陽気に座りづとめ、てをどりをつとめさせていただきます。

御前には、今日の日を楽しみに参り集いましたよふぼく、信者一同が、日頃賜る御高恩に御礼申し上げ、尚も変わらぬ御守護にお縋りたいと、勇んでお歌を唱和する状をも御覧くださいまして、親神様にもお勇みくださいますようお願い申し上げます。

先月二十日より二十二日まで、少年会アメリカ団のキャンプを無事に終えさせていただくことができました。誠に有難うございました。

また、今月十二日には、三年振りに開講しましたアメリカ修養会を滞りなく終えさせていただきました。誠に有難うございました。修了した修養会生たちが更なる心の成人に励んで、道の御用の上に活躍できますようお願い申し上げます。

今月は、少年会アメリカ団がこどもおちばがえりに参加し、また、海外少年ひのきしん隊に入隊者がおりますが、事故、病気、怪我などなく、無事にお連れ通りいただきますようお願い申し上げます。

また、来月十六日には、少年会アメリカ団のおつとめまなび総会を開催予定ですが、大勢の少年会員たちと共に開催できますようお願い申し上げます。

私共は、教祖百四十年祭まで半年に迫りました時旬に、これまでの年祭活動を顧みて、反省すべきところは反省し、残りの年祭活動期間、更に拍車を掛けて活動を推進致したいと存じます。何卒、親神様には、私共の真実の心をお受け取りくださいます、世界一れつが互いにたすけ合って睦び合う陽気ぐらしの世の状に、一日でも早く立て替わりますよう御守護の程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

7 月月次祭神殿講話

ブラザーフード教会前会長
森下 ケイ

皆様こんにちは。本日はここにお集まりいただき、皆様の貴重なお時間を共有してくだり誠にありがとうございます。庁長先生、奥様を筆頭に、七月の月次祭を滞りなくつとめさせていただくことができました。

この度、庁長先生より7月の講話のご使命をいただきました。本日の一番大切なおつとめを無事につとめ終えさせていただけたことに感謝の気持ちでいっぱいです。どうぞ深呼吸をしてリラックスし、心を落ち着かせて、本日の残りも感謝の気持ちをもって過ごさせていただきましょう。

しばらくの間よろしくお願いたします。

私が覚えている限り、両親から私は体の弱い赤ちゃんだったと幼少の頃から聞いていました。私は18ヶ月になるまで、首を自分で支えることも、自ら立ち上がることもできなかったそうです。私はポルトガルで生まれましたが、アメリカの地に到着するやいなや、首が座り、歩きはじめてことにすぐに気が付いたと母は言っていました。これはアメリカの土と湿度による良き変化のおかげに違いないと、母は話していました。今振り返ってみると、私の人生の物語は、湿度と土にまつわるように思えるのです。比喩的にいえば、湿度は感情的な重さ、不快感、または窮屈な環境を象徴することがあります。土地は人の成長や発展、癒しを与えるための条件や経験を象徴することがよくあります。

これからいくつか、私の体験をお話させていただきます。

子供の頃、私はよく一人でサンデースクールのバスに乗ったり、近所の人に乗せてもらったりして、多くの教会に行きました。7歳半の時に初めて天理教の教会を訪れ、初めて、家族全員と一緒に教会に行きました。私はすぐにここに自分の居場所があると感じました。しかし、その後すぐに父が家族をおいて、何年も行方不明になりました。母が悲しみと将来への不安を抱えていたことをよく覚えています。それでも、私は教会に通い続けました。母は私がどの宗教にも染まることを決して



許しませんでした。母は私に「あなたが成長して神様というのが一体誰なのかを本当に理解したときに決めなさい」と言っていました。

1974年、私がまだ9歳の時、私は初めて伝道庁に来ました。その日、なぜ車に乗ったのか全く分かりませんでしたが、ただロサンゼルス教会に教会仲間と一緒にいきたいという気持ちがありました。私は母や兄弟たちを置いて sacrament を出発しました。今振り返ると、このお話しを書くことで私の信仰の元始りに戻ることができました。

私たちが到着したとき、伝道庁には私が宿泊できる部屋がなかったため、ノウスアメリカ教会と呼ばれる場所に移動しました。私は一人、伝統的な和風一色で飾られた美しい二階の部屋にいました。床には布団が敷かれ、大きな窓からはロサンゼルスの夜景が見渡せました。子供で世間知らずだった私は、そのすばらしさにすら気づくことができませんでした。ただ、怖くてホームシックで、孤独感を感じていました。私は感情を抑えきれず、静かに大泣きし始めました。その夜、もう一つのグループが到着し、同い年の女の子が部屋に入ってきました。瞬時に気分が良くなりました。この集いは伝道庁の40周年のための特別な行事だったのです。ノウスアメリカ教会は、伝道庁で宿泊できないゲストのための受け入れの準備をして

あったのです。今振り返ると、そこにいることがどれほど特別だったのか全く分かっていませんでした。さらに驚くべきことに、そこは、真柱様がお泊りになっていた場所で、だからこそとても神聖で平和な感じがしたのだと思います。

これらのことを経験するずっと前から、私は「God be with you」とよく言っていました。母にそれを日本語でどのように言うか教えてくれるよう頼んだら、母は「神様がお守りします」と言うのだと教えてくれました。私は自分自身を信心深いとは思っていませんでしたが、ただ平和と健康を望み、他の人のためにも祈り、いつも「God be with you!」と言っていました。

ある日、教会のお母さんに、ここで人々は祈るときに何と言うのか尋ねました。彼女は言いました、「ケイは神様と言うんだよね？ここでは、親神様、教祖、霊様と言うこともできるのよ。そして忘れないで、聞くことも大切なのよ。」と教えてくれました。私は意図を持って祈り始め、三つのおやしろに焦点を合わせ、手と足と心で教会に仕えることにしました。

翌年の夏、10歳の時、1975年にこどもおぢばがえりに参加しました。母には、参加させてもらえるならホームシックにならないと約束し、母は私を参加させてくれました。私はホームシックにならず、とても幸せで、導かれていると感じました。お守りを頂いた思い出は一生の宝物です。お守りは神様が常にあなたと共にいて、常に守ってくださることを象徴しています。そして私は今でも毎日そのお守りを身につけています。

私はわずか一夏でたくさんのことを学べてとてもうれしかったです。将来、できる限り毎年こどもおぢばがえりに参加したいと思っていました。そして、13歳のときに再び参加させていただくことができました。その夏が終わって間もなく、母が両股関節置換手術を受ける必要があることがわかりました。とても深刻な事態でした。母が「しばらくの間、教会に連れて行けないし、再び歩いたり運転したりできるかどうか分からない、手術が成功して車椅子に乗らなくて済むとしても、それでも回復には時間がかかる」と言ったのを覚えています。私は考え始めました。もし家にお社があれば家でおつとめをし、母のために祈ることができるのではないかと。私は母に尋ねましたが、母は、自分はおやしろの管理ができるかどうか分からないと言いました。それから「もしも、貴方がおやしろの管理の仕方をわかっているなら、お祀りしてもいいわよ、と言ってくれました。

私の教会の長谷川会長に、自宅に神様をお祀り

してもらえるか尋ねました。会長さんは最初は返事をしませんでしたでしたが、私は何度もお願いし、きちんと管理し、毎日のおつとめをすると約束しました。そして、やっと講社をお祀りしていただくことができました。私は毎日、朝晩座りづとめをつとめ、祈りを捧げました。母の回復の間、私が自宅から祈るための神聖な場所が必要だったことを、会長さんは分かっておられたのだと思います。何も説明は必要なく、ただ、私はお社の鏡に向かって私の真実を向けました。

その時、私と兄弟たちはこれまで以上の責任に直面していました。私はその重みを感じていました。しかし、私は決意を持ち、毎日祈りました。私たちのすべての困難と苦しみの中で、私は心からの信仰を築き上げました。

私は神様にもたれることで忍耐強くやり遂げることができるタイプの人間でした。だからこそ、親神様は、神様が本当にどれほど強い存在なのかをお示しくださる状況に私を置いてくださったのだと信じています。神様は私より強く、私が一人で直面できる何ものよりもずっと強いのだということをお見せ下さいました。神様の忍耐強さと親心が私を包み込みました。

逸話編 75 にこうあります。

「子供の方から力を入れて来たら、親も力を入れてやらにゃならん。これが天理や」

神様の力が目前で繰り広げられているのを目撃し始めました。毎日祈り、おつとめをつとめさせていただくうちに、私は奇跡的なことを目にしたのです、それは長年歩くのに苦労していた母が力を取り戻し始めたことです。たった4ヶ月で母は再び歩きはじめ、さらには走ることもできるようになりました。それは私が今まで見たことのない光景でした。母は、子供の頃以来走っていないと言っていました。その年、母は初めて団参でおぢばがえりをさせていただきました。母は痛みもなく、喜びいっぱいでした。母はようぼくとなり帰国しました。母も私と同じように親神様にもたれるようになって来ていることが見て取れました。母の順調な回復と絶え間ない新しいエネルギーに驚かされました。

私は、逸話編 75 の、

「子供の方から力を入れて来たら、親も力を入れてやらにゃならん」

が生き生きとした形で目の前にあるのを感じました。私たちが皆、神様の子どもであるならば、神様が真の親の忍耐を示してくださるのです。

しかし、人生が将来性に満ちていると感じた矢先、すべてが変わってしまいました。

たった1年後、私が15歳の時、母は突然、動脈瘤で出直しました。私は悲しみに打ちひしがれ、完全にショックでした。ですが、母の最後の数ヶ月間は、平和と喜びを感じていたことを知っています。ある意味で、母は救かったんだ、と感じました。このお道は、私が永遠の失意に苦しむ所を、心の傷を癒す手助けをしてくれたと分かりました。なんとか恐怖から早い段階で立ち直ることができました。

母が出直した後、私は里親に預けられることになりました。子供の頃の家を離れなければならないという辛い現実と直面し、どうすれば日々のおつとめを続けることができるのかと自問しました。神様との繋がりが、私にとっての全てになっていました。悲しみにもかかわらず、私は信仰を持ち続けました。(頼れる親戚がいなかったため、どうにかして人々の信頼を得なければいけませんでした。)

私は明らかに成人する必要があると、おたすけについてもっと学ぶ必要がありました。そこで、私は大胆な決断をしました。隣に住んでいる人達に私の保護者になってもらうよう頼んで、家の近くに住み、神様をお祀りしている家の講社でおつとめを続けられるようにしました。18歳の兄はそのまま家に住むことができましたが、私の法的な保護者になるにはまだ若すぎたのです。

隣の人たちは快く私の依頼を承諾してくださいました。彼らは私を受け入れ、さらになんと私の法的養親になるために裁判所にも行って下さいました。彼らは私の母の親友であり、ナザレン教会の信者でした。毎週日曜日、心を開いて彼らと一緒に教会に行きました。同時に、私は日々自宅にお祀りしている神様にお仕えし、毎月第2日曜日には天理教の教会にも通い続けました。

どのようにすれば親神様の親心というものを本当に理解できるのかを自問しなければなりません。そして、ゆっくりと、だんだんと、それが謙虚さ、一貫性、信頼から始まることだと学んでいます。

謙虚にこのお道を歩むことは自分自身のためだけでなく、これからの世代のためにも重要です。私たちの子供たちや、いつの日か同じ道を歩む他の人たちに、私たちが教えに基づいてどのように考え、行動し、人生に応じるかを見せる必要があります。教祖のひながたは、これが可能であることを教えてくれました。私は常に親神様と教祖が私と共にいると感じていました。教祖は、私たちがこのお道を歩むことができるということ、そして、そうすることで他の人々を導くことが出来る



ということを身をもってお示し下さいました。

私は親神様にお誓いしました。私は岩のように強く固い、安定した信仰の基盤を築く必要があり、それは、私の人生において真の安定をもたらす基盤であると信じました。人生で多くの困難に直面した後だったので、特にそう思ったのです。

私は決意をしました。キリスト教徒が洗礼を受ける前にするように、私も神様に自分の人生を捧げることにしました。母がかつて言っていたことを思い出しました、「洗礼を受けるのは、イエス様が誰であるかを知り、本当に理解できる年齢になるまで決して洗礼を受けてはいけません。」なぜなら、一度洗礼を受けたら、考えを変えることはできないからです。その母からのアドバイスは私の心に残っています。

しかし、天理教のようぼくになるということはそれとは異なりました。私たちは心を開いて、親神様の真実のご守護を自由に求めるよう教えられています。そして私はそんな天理教の、自由に思考し、親神様が私たちの深い胸の内を見てくださると教えられていることをありがたく思いました。世界だすけと一手一つの心構えは、すべての人類に対する神様のご配慮と限りない忍耐があつてのことです。このような志から陽気ぐらしが実現するのだと思います！

天理教は、選択の余地を与えてくれました。真

実が根を下ろすことのできる決断の場と、この世は神様の世界であり、皆が一つになることができるのだと信じることができました。

私が23歳の時、長谷川会長が「ケイ、君にはようぼくになってもらいたい。」と言いました。「え？」私はもう自分がようぼくなのだと思っていました。会長さんは私に、おぢばに帰り、9回の別席のお話を聞く必要があると説明してくれました。私たちは笑い合い、私は別席の勧めに「はい」と答えました。

その時、息子レイモンドの父方の祖父が私たちと一緒に住んでいました。祖父は癌、白内障手術、口の手術など、他の困難にも直面しており、私は彼のお世話をさせていただいていました。私は彼のために毎日祈り、「おさづけ」を取りつがせていただいていた。恥ずかしい思いでしたが、私は彼に自分が型破りな天理教教徒であることを伝えなければなりません。なぜなら私はようぼくではないのに、おさづけのおとりつぎをしていたからです。そのことを彼に説明しました。するとある日、驚いたことに、彼は私が日本に行き、ようぼくになるという約束を果たすための航空券の半額を支払うことを申し出てくれました。

信じられませんでした！

ブラウンおじいさんは、ふざけるような人ではありませんでした。彼は1918年に生まれ、物事を正しく行う人で、知恵に溢れた人でした。彼はこの一連の状況が神様に関わることであり、私たちの全てをも超えたもっと偉大な何かであり、神聖な道に進むための正規かつ適切な方法があることを理解しました。彼は私に「真のようぼくになって戻ってきなさい、そしてまた私のために祈り続けてくれ。」と言いました。彼のサポートは私にとってとても重要なことでした。感謝と決意を持って、私はすぐに旅行の手配を始めました。

すべてがうまくいき始めました。出発のわずか2週間前のことです。考えもしなかったことが起こりました。行方不明だった父から電話がかかってきました。私たちが子供にまた会いたいと言ったのです。父は16年もの間行方不明でしたし、母も10年前に出直していたので、父も亡くなっているのではないかとすら思っていました。私は動揺を隠しきれず、感情に圧倒されて泣きました。深呼吸をすると、内から力を感じました。きっと神様のお守りによって、私は父と再会できるのだと思いました。私は彼に天理教の教会に通い続けていること、そして2週間後に日本に行くようぼくになることを伝えました。すると、彼の最初の言葉は、「おお、教祖、中山みきさま。おぢばに

行くのかい？」でした。

私の言葉は一瞬切れ、「教祖が誰だか知っているの？」と尋ねると、父は「知っているよ」と答え、「1954年、まだ君たちのお母さんに会う前に、アメリカ兵として日本に駐留していた時におぢばに行ったんだ。とても美しい場所で、君も行くべきだよ。」と続けました。父の言葉は私に安らぎと励ましをもたらしました。瞬時に、私は新たな落ち着きを感じました。私の心は満ちあふれ、これこそ私が天理教が大好きな理由だと感じました。親神様のご守護と完璧なタイミングの証です。

この教えを他の人々、友人、家族、さらには知人と共有することが非常に重要だと感じています。私は教祖は存命で、常に身近で陽気ぐらしへと導いてくださっていることを人々に知ってもらいたいです。周りの人が心を開き、これらの気づきを共有できるほどの近い存在であり、共有する喜びを通じて神様の思召しを理解できる時、それは途轍もなく力強いのです。

ついに日本に出発する日がやってきました。私は10ヶ月の息子、レイモンドを連れていく支度をしました。出発する前に、一緒に行く長谷川会長に「叔父の日本の連絡先が入っている母の小さな黒い手帳を日本へ持って行くので、叔父に連絡していただけますか？」と尋ねると、先生は了承してくださいました。

出発の準備をするにつれ、その瞬間の重みを自分自身のためだけでなく、家族全体のみで感じました。母が10年前に出直していることを叔父が知っているかどうかはわかりませんでした。この旅はただの巡礼以上に意味のあるものでした。それは信仰の、家族の、そして魂の元に帰る帰郷でもありました。

別席のお話の半分をおぢばで終えた後、私たちは短い休憩を取り、本島へ旅をしました。出発前に、叔父に連絡することができるかどうかを尋ねましたが、会長さんは、まだ忙しくやるが多すぎるので、帰った後に連絡すると言いました。私は理解し、忍耐強く待ちました。

私たちがおぢばに戻った後、私は残りの別席を運び終えることに集中しました。9席すべて運んで満席となり、私は正式にようぼくとなりました。翌日にはアメリカに出発する予定でした。出発前に「会長さん、今度は叔父に連絡していただけますか？」と最後のお願いをしました。今回は「よし」と答えてくださいました。

振り返ってみると、この瞬間はすべて親神様の計らいであったと信じています。会長さんが電話をかけてくださったのは、日本の千葉県の話番

号でした。叔父の奥さんが出ました。会長さんは自分が誰で、どこから電話をかけているのか、そしてその理由を説明しました。そして何度も頷き、「はい、はい、はい、うん、うん、はい」と聞いていましたが、その後電話を切りました。私は何が起こったのかわからず、ただその場に立っていました。しかし、とんでもないことが起こっていたのです。「ここで待っていて！」と会長さんは言いました。「君の叔母さんが今、叔父さんに連絡してくれているよ。たった5分前に叔父さんが天理駅から叔母さんに電話をかけて、次の電車に乗るところだと言っていたそうだよ。もし叔父さんが電車に乗る前に連絡を取れたら、叔父さんはすぐにここに君に会いに来られるよ。」というのです。本当にこんなことが起こっているのでしょうか？

ほんの2週間前に父と再会したばかりで、そして今度は叔父とも会うことに？20分も経たないうちに、叔父を乗せたタクシーが到着しました。長谷川先生はどこかに行っていていらいっしょらなかったの、急いで誰かに通訳してもらう必要がありました。素晴らしい女性、清水マサコさんに手伝っていただきました。叔父は、母の出直しを知っており、私たち3人の子供たちのことを心配していたと言いました。私も叔父のことを考えていたこと、そして母の黒い手帳を持ち続けていることを

伝えました。そして計画もなく、私たちが出会うことができたのは、親神様のご守護であるに違いないと伝えました。私たちはお互いの誠実が我々を結びつけたことに同意しました。私は飛び跳ねて「私たちの誠実ね」と言い、叔父は「私たちの血筋にある」と涙で目を瞬きさせながら言いました。

一緒に神殿に行って参拝しませんか、と私は尋ねました。彼は笑って「僕はまだ天理教ではないし、今日は時間がないんだ。すぐに電車に乗らなきゃいけない。でも次に来るときは、必ず参拝に行くよ。」と言ってくれました。

私たちの目は涙でいっぱいでした。叔父は母にとっても似ていて、私は彼の姉にそっくりです。私たちは幸福と喜びで満ちていました。彼はなぜ天理にいるのかと私に尋ねました。私は「ようぼくになるために来ました」と説明しました。それから私も「叔父さんは天理教でないなら、なぜ天理にいるの？」と尋ねました。

彼は笑顔で、ここ3日間、仕事で天理にいたと言いました。会社が彼を天理に送ったのは初めてで、その日、叔父は神殿の下で水道管の工事をしていたと言いました。「天理の至る所にあるマンホールの蓋にあるNのマークを見たことがあるかな？それは西原水道会社の印で、私はずっとこの

TENRIKYO
MISSION TO AMERICA & CANADA

WE'RE ONLINE!

www.TenrikyoAmericaCanada.org

Stay Updated! Scan the QR code with your camera phone.

携帯のカメラでQRコードをスキャンして、アメリカ伝道庁ウェブサイトの最新情報をチェックしてください!

CALENDAR
tenrikyoamericacanada.org/events-calendar

BLOG
tenrikyoamericacanada.org/blog-timeline

NEWSLETTERS
tenrikyoamericacanada.org/publications

SERMONS
tenrikyoamericacanada.org/sermons

OYASAMA-INSPIRED STORIES
tenrikyoamericacanada.org/stories-inspired-by-oyasama

会社に勤めてきたんだよ。」と教えてくれました。鳥肌が立ちました。私はもう一度、「私たちの誠真実ね。」と言いました。起こっていることすべてを吸収するのが待ちきれなかったです。お別れを言った後、私は階段を上がり、心は感動であふれていました。

ちょうどその日、おさしづけの理を拝戴した後、ある先生が水がどのように流れるかについてお話をしてくださいました。土の下で根を通り、作物に栄養を与えて作物が成長し、私たちが生きていくための食べ物となるのです。同じように、血液は私たちの血管を流れ、人間に命を与えます。それはすべて親神様のご守護のおかげです。そしてその時、私は気づきました。神様は、私が生きていくと実感する必要があることを知っておられたのだ、と。本当に、完全に生きていく実感。そして、初めて私はそう感じました！このお道を歩き続けるなら、私はもう決して迷うことはないでしょう。私は生まれ変わったように感じました！

これは私が今まで聞いていたどの洗礼よりも良いものでした。何年にも渡る孤独やホームレスの経験、自分がもし死んだら誰が亡骸を引き取ってくれるのかなどを考え、危険から逃れ、悲しみを抱え、居場所を求めて過ごしてきました。

私が求めていたのは神様を信じることであり、その瞬間、神様が私を見ているとわかりました。それは、神様はすべてをご存知で、私の前に何マイルも何年も先に、道を敷いて下さり、私がその道を辿り、天の理を理解できるようにして下さいたかのように感じました。確かに、「珍しところが現れた」のです。

親神様は私が何を必要としているかを正確に知っておられ、再び家族を与えてくれました。その瞬間から、私は元の神、実の神様に人生を捧げることが決意しました。この決断は恐れからではなく、愛からの決断です。

貴方も真実を求めるのであれば、教祖のこのお言葉を聞いてください。

おさしづで私たちは次のように教えられています。「ひながたの道を通らねばひながた要らん。(略)ひながたの道より道が無いで。」

おさしづ 明治22年11月7日

上記のおさしづでは、親神様が常に私たちを見守って下さっていることを学びました。人生の早い段階に植え付けた信仰は、今も育ち続けています。それは本当に時を超えています。

私が天理教について受けた最も素晴らしい褒め言葉を紹介させてください。それは二人のモルモン教の布教師との短いけれども意味のある出会い

の中で起こりました。彼らは私たちの教会がある通りを歩いていました。ブラザーフッド教会はその通りの一番端にありますし、教会の前には「ブラザーフッド教会」と書かれた大きな看板があるので、彼らは教会にたどり着く前にここが普通の家ではないことに気づいたに違いありません。二人の男性は白いシャツと黒いネクタイを身に着け、それぞれ小さなピンバッジ付きの名札を付けていました。私はたまたま外にいて、彼らが私たちの教会に興味を持っているのではないかと感じました。そこで、自己紹介をし、何か質問があるか尋ね、私たちは会話を始めました。

数分後、私は彼らを教会へ招き入れ、会話を続ける必要があると感じました。ブラザーフッド教会では夕食はいつも午後5時でしたが、神様のタイミングだったのでしよう。私は彼らに神殿を案内し、料理の支度を終わることができました。

森下の両親が家にいて、布教師たちも夕食を共にしました。その後、母と父は私に彼らと会話を続け、6時の夕づとめの準備をするよう頼みました。

私は布教師たちに、おつとめの後に夕食を終えるか、テイクアウト用の箱を用意する方がよいか尋ね、彼らにそのまま残るよう招待すると、彼らの目が輝きました。彼らは礼儀正しく、おつとめに参加してもよいか尋ねました。私は彼らを歓迎すると伝え、おつとめについての説明をしました。

座りづとめから始まり、その後、原典のみかぐらうたから二下りのお手ふりをし、おふでさきの拝読で締めくくります。

一緒に目で追えるように私は彼らに原典を見せました。彼らはとても好奇心旺盛で敬意を持っており、私は彼らの中に深く感動した何かを見て取ることができました。私たちの日常の日課に対する献身が実を結んだのか、もしくは神様からの直々の何かに感動したのかもかもしれません。

ただ分かっているのは、彼らが去る前に、今まで聞いた中で最も素晴らしい褒め言葉の一つを私に贈ってくれたということです。彼らは「天理教はキリスト教がキリスト教であるよりも更にキリスト教である。」と言いました。私もそうだと確信しています。これは忘れられないできごとでした。信仰のラベルではなく、その精神を証明しています。天理教は神様の真実の最後の十分の一の教えであることを常に心に留めておいてください。他のすべてはすでに教えられています。

天理王命と唱えるとき、生命の源であるおぢばに直接繋がるのです。私たちの心が唯一の神様に焦点をあて続ける限り、私たちの誠真実によって

おぢばの理を受けることができます。

神様によって明らかにされたこの真実が大好きです。私たちは教祖が教えてくださった通りの、おつとめや善い行いから決して外れてはいけません。神様の不思議なお働きは必ず目の前に現れて来ます。

ほとんどの皆さんは森下二郎が誰かをご存知かと思えます。私は彼の妻と呼ばれることができ、とても幸運で名誉に思えます。二郎は私のヒーローでした。

彼が出直す前、私たちは彼の癌が不治の病であることについて直接話をしませんでした。私はただ彼に「これからどうしたらいい？」と尋ねました。彼は冷静に「心配しないで、できるだけ早く一緒におぢばに帰ろう。」と答えました。その言葉がどれだけ私を安堵させたことでしょうか。私は彼を信じました。彼は回復するために戦うつもりで、私は彼を背負ってでも一緒におぢばへ行くつもりでした。しかし、チケットを買う前に二郎は出直してしまいました。

なんとか自分を鼓舞して立ち上がらなければなりません。再び神にもたれ切り、一人でおぢばに飛び発ちました。15時間の旅のはずが、天候の遅延と5回の予期しない乗り換えのせいで41時間もかかりました。私の荷物は紛失し、疲れ果て、混乱していました。この迂回は神様のサインだったのか？私は二郎の御霊に私と一緒にいてほしいと頼みました。私はこの時、これまでにない程、彼にそばにいてほしかったです。

ようやく天理に到着したとき、私は参拝させていただくために神殿へ向かいました。南側の入り口からおぢばに近づくと、何かが違うと感じました。40年間の間、40回近くおぢばがえりをした中で、初めて、そこは空虚に見えました。誰も入らないし、誰も出て来ません。

私は靴を脱ぎ、階段を上り始めました。ちょうどその時、白いマスクをした男性が出てきて、私たちはお互いを見つめました。私は少し近くでじっと見つめると、それが名東大教会の役員であるマサキ・ジロウさんと気づきました。私は「ジロウ！」と叫びました。お互いの目に涙があふれました。私たちは軽くお辞儀を交わしました。言葉は必要ありませんでした。私は神殿に入り、お供えを入れてひざまずいて祈りました。深く礼をし、「ありがとうございます、親神様... やっと帰って来ました...」と囁きました。しかし、その言葉を言い終わらないうちに、私は泣き始めました。そして、制御できないほどに泣きました。

なぜかって？



それは、私は今まさにジロウという名前を大声で叫び、そしてそう呼ぶことはもう、おそらくこれが最後になるからです。マサキさんに会えたことで、その瞬間を与えられました。二郎の名前をもう一度呼ぶための神聖な空間を与えていただきました。私は心から感謝の気持ちを抱きました。そして、気づいたのです...遅延や長いフライト、失くした荷物など、すべてが神様のタイミングだったのです。

親神様がすべてを完璧に整え、二郎の御霊が神殿の前で私と出会い、一緒に親里に帰ることができたのです。神様がそのようにしてくださったのです。

「神様はいつも、私の心に届く最も優しく、力強い方法を見つけてくださいます。たとえそれが私の頑固な頭が本当に理解するために少し余分な時間がかかるとしても。そのこともまた、ご守護なのです。」

振り返ってみると、神様が日々導いてくださったこれまでの道のすがら、今までこぼしてきた涙、多くの祈りが、二郎が私たちに託した夢と一致していたのかがわかります。私たちは一緒に親里に帰ってきたのです。

私の人生はこのような話しの連続です。他の人の話しを聞くことも大好きです。

私が天理教が大好きな理由です。私たちは経験を通して信仰を生きており、その経験は私たちを神様の心へと帰らせてくれます。それは私に本当

の喜びをもたらし、その喜びを神様も共に感じてくださっているのを感じることができます。

「ひたすらたすけ一条に歩む中に、いつしか心は澄み、明るく陽気に救われていくとお教え下さいました。ちばを慕い親神様の思召に添いきる中に、必ず成程という日をお見せ頂ける。この五十年にわたるひながたこそ、陽気ぐらしへと進むただ一条の道である。」

親神様と教祖は心の内を澄ませることをお教えくださるのですが、それは私たちが撒いたタネがこの人生で芽吹くのを見ることができるところです。時にはその種が咲くのに10年、20年、あるいは30年かかることもあります。しかし、家庭でも、職場でも、休息の時でも、天理教は私たちを驚くべき道に導いてくれます。

私の話は長くなってしまいましたが、どうしても皆様にお話ししたいと強く思う非常に重要な話しが一つあります。この話を埋もれさせすることはできません。

教祖に対する信仰を植え付けるためにはどうすれば良いのか、他の人の心に届く方法を探し続けなければならぬのです。教祖のご生涯を見ると、私たちの想像を超える艱難、刑務所さえも経験されています。教祖は、高山の人も谷底の人もすべての人を受け入れました。

この話は私の兄、アンディについてです。ある日、SP教会の故岡崎史朗（オカザキ・フミオ）会長と私が一緒にプロジェクトに取り組んでいました時のことです。先生は私に向かって言いました。「ケイ、君の兄のアンディに関する質問をしてもいいか？」私は「もちろん」と答えました。それから先生は言いました。

「まず、ある男性の話をしよう。かつてこのイースト・ロサンゼルスに住んでいた男で、君の兄が犯したどんな犯罪よりもずっと深刻な罪を犯した男性がいたんだ。彼は警察から逃げていて、あらゆるキリストの教会やカトリックの教会を訪れたんだが、行く先々で、警察を呼ぶと言われたそうだ。」

それで彼はワシントン州シアトルに逃げ、偶然か神様のお導きかによって、初めて天理教の教会のドアをたたいた。

この男はただ隠れようとしていたのではなく、彼は救われたいと思っていたのだ。彼は会長さんに「私は自首するつもりだが、自分は本当に救われることができるのか知りたい」と言ったそうだよ。

そのワシントンの教会が本島系統の教会だったので、そこの会長さんは彼にこう言った、「もし本当に自首する気があり、心から救いを求めている

のなら、まずロサンゼルスに戻って欲しい。ここでは私は救げられないが、ロサンゼルスのある教会を知っている。向こうで救けてもらえるか電話してみよう。」と。

その会長さんが連絡を入れたのが岡崎先生だったのです。

岡崎先生は続けました、「もしその男性が本当に誠実なら、彼に3日間与える。ポイルハイツの私たちの教会に泊まっても良い。その3日間、彼が救かるための座りづとめを教える。ただし、その後自首すると約束できるなら、だ。男性は同意した。そしてその教会の人は、彼をロサンゼルス行きグレイハウンドバスに乗せたんだ。」

それから岡崎会長は私を見て、「君のお兄さんのアンディはフォルソム刑務所に入っているかい？」と尋ねました。私は驚きました。「はい！そうです。でも、どうしてそれを知っているのですか？アンディはオレゴン近くのずっと北部にいたので、長い間会ってなかったのですが、たった三週間前にフォルソム刑務所に移送されたばかりです。」と私は言いました。

彼は微笑んで言いました。「今話した男から一年少し手紙を受け取っていてね、最近の手紙には美しいことが書いてあったんだよ。『私は救いを見つけたと思います』。『隣の部屋から誰かが座りづとめを歌っているのが聞こえます。』と。

岡崎先生は少し間を空き、「座りづとめをしている天理教の信者で、刑務所にいるのは君の兄のアンディしか考えられない。」

その瞬間、私は驚き、ほとんど呼吸ができないほどでした。感動的で、感謝の気持ちでいっぱいでした。私は心の中で、もしアンディがおつとめをしているなら、彼は大丈夫だし、心配することなんて何もない！彼は親神様、教祖にもたれきっている、と思いました。良かった！！

さらに感動的なことに、もしかしたらアンディは別の人の魂の救いを見つける手助けをしていたのかもしれない。もしかしたら、彼はその男性が信じ、信頼し、座りづとめを歌い、自ら救われるための道具になったのかもしれない。神様は互いに出会わせるために彼らを引き合わせたに違いありません！そして再び、私はおつとめで本当に救かることを再認識しました。おつとめは本当に効能があります—真摯な努力がある限り。たとえ刑務所の壁の中であろうとも。

これから、私たちがお互いを励まし合い、もっと努力し、人だすけのために一日でも早く努めることができることを願っています。私たちの努力が無駄ではないと信じてください。今行動

を起こさないなら、切迫感をもって行動しないなら、陽気ぐらしの実現はますます難しくなるだけなのです。

親神様は、私たちがこれらの教えに対する完全なる信頼と信心を急きこまれておられ、そうすることにより、多くの機会が私たちのもとに訪れるでしょう。私たちは、心の掃除を常にし続けなければなりません。シャワーを浴びることを忘れずにいるように。しかし、私たちはいつも心を清めることを思い出させているのでしょうか？

ですから、教祖 140 年祭に向け、残りの期間の

活動に全力を尽くしましょう。教祖は、私たちの成人を待ち望んでくださっています！

ご清聴いただき誠にありがとうございました。



親里セミナー





伝道庁連絡



7 月月次祭

祭主 庁長
 扈者 中富淳次郎 林孝彦
 賛者 清水ロバート 雪本スティーブン
 指図方 田中知義
 神殿講話 森下ケイ (英)

教会事情

カリフォルニア教会 / 任命願、臨時祭典願
 おはこび予定: 2025 年 7 月 26 日
 後任者: 大西太一トニー
 奉告祭: 2025 年 8 月 31 日
 イリノイ教会 / 任命願、臨時祭典願
 おはこび予定: 2025 年 7 月 26 日
 後任者: 高垣弘明
 奉告祭: 2025 年 10 月 4 日

天理教語学院 (TLI) 日本語科出願

来年度 (2026 年度) の出願に関して大幅な変更がありますので、お知らせ致します。

出願資格

1. 本国で正規の課程による 12 年以上の学校教育、またはそれに準ずる課程を修了した者。
2. 出願時に「日本語能力試験 N5」または「N5 相当」の日本語能力を有する者。

出願に必要な書類として願書と共に日本語能力試験 N5、または N5 相当の日本語能力が必要となります。

- ・ TLI では、日本語能力 N5 以上を有しない出願予定者に対し、出願前の 5 月から日本語科が提案する教材を用いた自習機会を設け、8 月末までに実力認定試験を受験してもらい、その結果、TLI が N5 相当の日本語能力があると認定した場合に出願を受理する形とし、出願自体を妨げないように便宜を図っています。

願書の配布について:

- ・ 願書は 4 月 25 日よりダウンロード配布を開始していますので、天理教語学院の Website をご確認ください。
- ・ 同時に、事前学習及び実力認定試験に関する案内も行っていますので、Website をご確認ください。
<https://kaigai.tenrikyo.or.jp/tli/top/>

天理教語学院 (TLI) おやさとふせこみ科出願

出願資格: 次の条件をいずれも満たしていること
 (教育課程、立場、日本語能力、進路)

1. 本国で正規の課程による 12 年以上の学校教育、またはそれに準ずる課程を修了した者
2. 海外の教会長・布教所長の子弟、またはそれに準ずる者で、入学時に「ようぼく」の者

3. 本校日本語科卒業 / 卒業見込み、または日本国籍を有する者で、入学時に「日本語能力試験 N3」相当以上の日本語能力を有する者。または、日本国外からの直接出願者 (日本国籍保持者は除く) の場合、「日本語能力試験 N2」以上の日本語能力を有する者
4. 卒業後、将来自国において布教伝道に従事する予定の者

出願書類: 天理教語学院事務所で頒布 (1 部 500 円)
 出願期間: 2025 年 10 月 1 日 ~ 10 月 31 日

教人資格講習会

今年の 8 月 27 日から講習会では英語クラスが設けられる予定です。

教会長資格検定講習会

9 月 27 日よりの教会長資格検定講習会の受講予定者は 8 月末までに、アメリカ伝道庁までご連絡下さい。各々の講習会の受講者が 5 名以上であれば英語クラスの開講予定です。4 名以下であれば同時通訳、又は取り出しにて講習会が行われます。

秋季霊祭

9 月 20 日 (土) 午後 7 時より秋季霊祭を執り行います。今回は、中土幸子セントラルコースト教会 5 代会長の霊様を合祀致します。

教祖 140 年祭帰参報告書

アメリカ伝道庁としての教祖 140 年祭帰参報告書を作成しましたので、帰参予定の方は 10 月 1 日までに報告書の提出をお願い致します。尚、右の QR コードより、Google Form にても提出可能です。



教祖 140 年祭【特別展示】

今秋より、教祖ゆかりの品を中心とした教祖 140 年祭「特別展示」を開催

日程: 10/25・26、11/8・9・15・16・22 ~ 26・29・30、12/6・7・13・14・20・21・25・26

毎月 26 日は午後 1 時より開催

10/25 は午前中のみ開催

立教 189 年 (2026 年) の開催は後日お知らせ

時間: 午前 10 時 ~ 午後 3 時まで

場所: おやさとやかた南右第 2 棟

天理教ホームページをご確認ください (日本語のみ)。

<https://www.tenrikyo.org/se140/>

立教 189 年 1 月末教人資格講習会

教会長資格検定講習会開催日変更

願書受付日: 1 月 23 日、24 日 (従来通り)

開催期間:

教人資格講習会

【変更前】1 月 27 日 ~ 2 月 10 日 →

【変更後】2月1日～15日
教会長資格検定講習会

【変更前】1月27日～2月16日 →
【変更後】2月1日～21日

各会連絡

教祖 140 年祭後の教会長御招宴

- 対象：直属教会長を除く全教会長 ※御招宴時点
日時：2026年1月28日～2月1日正午～13時30分
- ・通訳の必要な海外教会長は、1/28に出席予定
 - ・通訳の不必要な海外教会長は、割り当てがあれば1/28以外でもよい
 - ・案内状は8/25に直属担当者に配布予定

教祖 140 年祭 JR 天理教団体割引について

天理教おちばがえり団参券とは別に、2025年9月1日～2026年1月31日までの期間、8人以上の団体が対象となる割引がございます。詳細は直属教会、またはアメリカ伝道庁書記までお問い合わせ下さい。

JR 天理教おちばがえり団参券の新区間について

教祖 140 年祭に向けた特別措置として、2025年9月1日～2026年1月31日までの期間、JR 団参券に「京東-天理」の新コースが追加されます。詳細は直属教会、またはアメリカ伝道庁書記までお問い合わせ下さい。

天理大学国際学部日本語学科入学案内

天理大学国際学部日本語科（留学生対象）にて日本のことを学びたい方は、以下の URL をご参照下さい。
『入試情報サイト』 <https://www.tenri-u.ac.jp/ent/>
『大学案内』『入試ガイド』

<https://www.tenri-u.ac.jp/ent/request/>
『日本学科留学生<国外在住>選抜入試概要』
https://www.tenri-u.ac.jp/ent/system/jp_int_etc/
入学課：Tel +81-743-62-2164 / Fax +81-743-63-7368
E-mail nyushi@sta.tenri-u.ac.jp

尚、海外受験の場合には、来日の必要はなく、書類提出のみで受験できるとのことです。

立教 189 年 1 月と 4 月の別席に関して

教祖 140 年祭前後の 1 月や御誕生祭前後の 4 月は、別席者の増加が予想されることから、事前にライブの日時を決めています。天理教ホームページの「別席外国語スケジュール」、または海外部のホームページの「別席外国語スケジュール」から、予定をご確認ください。



天理教ホームページ



海外部ホームページ

ふしん委員会

キッチンにあるオープンのドアが故障し温度が上がりにくい状態ですので、修理をします。

布教委員会

- ・先月より教会長・布教所長・出張所長による伝道庁月次祭当番を、再開しました。10月までの当番を以下の通りお知らせいたします。
8月：林孝彦、田所レイ 9月：中富淳次郎、上杉浩司
10月：文岡邦人、渡邊京子
- ・10月25日に回廊拭きひのきしんを行います。帰参の方々は、朝づとめ45分前(午前5時30分)に、南礼拝場後方東側にご集合下さい。
- ・11月15日(土)の午後、よふぼくの集いを開催致します。8月末に行われる原典勉強会の一講義を拝聴し、その後練り合いをさせて頂く予定です。また、夕づとめ後には、懇親会を計画しております。多くのよふぼくの方々にご参加頂きますようお願い致します。

広報委員会

- ・教祖 140 年祭に向けて活動している方々の情報を「一れつ・ニュースレター」に掲載しています。つきましては、各教会・布教所・地区、また身の周りの方々の活動情報・写真等の提供をお願い致します。

情報提供先

川上 kamishuyo@hotmail.com

林 takahayashi@gmail.com

- ・伝道庁ホームページのアップデート：「Stories inspired by Oyasama」に新しく5話加わりました。三代真柱様の「喜びの日々」[Joyousness day after day] のオーディオブックが作成され拝聴できりようになりました。是非、伝道庁ホームページをご覧ください、また周りの方々に紹介いただきますようお願い致します。また、ドメインネームも Tenrikyo.com から TenrikyoAmericaCanada.org に変更されております。
- ・パスポート更新について、詳細は18ページにて。



Stories
inspired by Oyasama



Joyousness
day after day

Future Path 委員会

- ・ 2025年8月30、31日に天理教アメリカ伝道庁にて、天理教原典勉強会（おふでさき、みかぐらうた、おさしづ）を開催します。53名の申込みがありました。
- ・ 8月に、布教委員会と教化育成委員会の協力を得て、教会長、布教所長、出張所長夫妻、また後継者を対象にアンケートを実施します。内容は主に既存の育成プログラムに関してとなり、より良いプログラムにするために活用させていただきます。

婦人会

- ・ 「みちのだい育み塾」
9月20日（土）午後1時 於：伝道庁
対象：16歳～49歳の会員
内容：「八つのほごり」に関する講話
グループトーク
講師：日本語、庁長 英語、雪本利清先生
締切：9月7日（日）
1歳～12歳までの託児があります。
詳細は各地区責任者にお尋ね下さい。

立教188年こどもおぢばがえり

今年のアメリカ・カナダ・ハワイ団のこどもおぢばがえりには19名の少年会員と26名の育成会員が、海外少年ひのきしん隊には6名の隊員と3名のカウンセラーが参加しました。



少年会

- ・ 今年のアメリカ・カナダ・ハワイ団のこどもおぢばがえりには19名の少年会員と26名の育成会員が、海外少年ひのきしん隊には6名の隊員と3名のカウンセラーが参加しました。

青年会

- ・ 第99回天理教青年会総会は、10月25日（土）午後1時より本部中庭で開催されます。アメリカ青年会では、参加される方に交通助成を検討しています。助成の申請、お問い合わせは下記のアドレスまでお願いします。
seinenkainorthamerica@gmail.com
- ・ アメリカ青年会の活動に関して、意見やアイデアを募集しています。
seinenkainorthamerica@gmail.com

NYセンター

- ・ 8/5 インターフェイス平和の集いに参加
- ・ 9/7 にいがけデー NY 地区活動
- ・ 9/20 少年会おとまり会、総会（～21）









教祖 140 年祭おぢばがえりに際し、日本国パスポートについての注意事項

昨年 11 月 24 日に、在米日本国総領事館より、日本国パスポートについて注意事項が発送されました。主に、パスポート申請は 1 か月の日数を要する、ということです。これから教祖 140 年祭のためおぢばがえりをされる方々にもこの情報を知っていただくため、この度、注意事項を転載させていただきます。

1. 2025 年 3 月 24 日申請受理分から、パスポートの偽造・変造対策を強化するため、顔写真ページにプラスチック基材を用いた「2025 年旅券」の発給を開始しております。
2. 従来は、パスポートの申請から交付まで約 1 週間で行って行っておりましたが、2025 年 3 月 24 日以降については、パスポートが日本国内の国立印刷局で作成され、当館まで配送されることになるため、申請から交付まで 1 か月程度の日数を要しております。
3. 当館ホームページ等でもご案内していますが、従来と比べてパスポートの発給に時間を要することになるため、この機会に、改めて、現在お持ちのパスポートの有効期限が十分か御確認いただき、早めのパスポートの切替申請を御検討下さい（パスポートの残存有効期間が 1 年未満の場合に切替申請が可能です）。
4. これまで、当館から遠方にお住まいで、書面による申請を希望する方については、申請と同日に交付可能なサービスを実施しておりましたが、2025 年 3 月 24 日以降はこのサービスを終了しております。
5. このため、遠方にお住まいの方におかれましては、是非オンライン申請の利用を御検討ください。十分に時間の余裕をもってオンライン申請頂ければ、領事出張サービス時にパスポートを交付することも可能です。また、来館時の交付を御希望なされる場合でも、御来館いただくのは交付時の 1 回のみとなります。オンライン申請につきましては、総領事館 HP を御参照ください。

その他、米国における外国人登録義務等の厳格化による注意事項（グリーンカードの常時携帯義務等）についても、総領事館のホームページを通してご確認ください。

TENRIKYO MISSION HEADQUARTERS IN AMERICA
2727 EAST FIRST STREET
LOS ANGELES, CA 90033

NON-PROFIT ORG.

U.S.POSTAGE
PAID

LOS ANGELES, CA
PERMIT NO.30002

CHANGE SERVICE REQUESTED

THE JOYOUS LIFE



TENRIKYO came into existence on October 26, 1838, when God the Parent, Tenri-O-no-Mikoto, became revealed through Oyasama, Miki Nakayama, to save all humankind. God the Parent is the original and true Parent who not only created humankind but has nurtured and protected human beings ever since.

God the Parent created humankind so that by seeing us live the Joyous Life, God could share in our joy. The living of the Joyous Life is, therefore, the purpose of our existence. Since God the Parent is our Parent, we are all God's children, and thus we could realize that we are all brothers and sisters.

“With human beings:the body is a thing lent by God, a thing borrowed.
The mind alone is yours.”
Osashizu:June 1, 1889

We are taught that our bodies are borrowed from God the Parent and only our minds belong to us and, by the proper use of our minds, we will be able to live the Joyous Life.